



リンボウ寸言  
『重なりあう風景の町』  
林 望

もう何年前になるだろうか。さる雑誌の旅の特集で、初めて下関を訪れて、丸々三日間、防長の野をあちこちしたことがある。その時に、私は、この下関というところには、日本の原風景のような田園が、そしてまた源平時代から幕末、そして近代、昭和にいたる歴史が、重層的に息づいているということに、俄然感銘を受けた。本号にもちよっと触れられている矢玉の湊などは、その後も私は、「もっとも美しい河口集落の風景」として、各地で講演をする度に紹介しつづけている。心がほんとうにほわっとするような、風景と人心の温かさ。本号にも、この町の持つそういう独特の空気が、そこはかとなく描き取られている。また行ってみたいくなるなあ。



ゼロ ハチ サン  
**083** VOL.8  
うみ やま たいよう

2011年3月1日発行  
編集人=福田章  
ディレクター=大野金繁 本文デザイン=押見保  
編集委員=林 望  
発行=下関市 〒750-8521 山口県下関市南部町1番1号  
総合政策部広報広聴課 ☎083-231-2951  
制作統括=サンデン広告株式会社  
印刷=株式会社アカマ印刷  
協力=下関市の皆さん  
アドバイザー=  
下関フィルム・コミッション 常任委員長 富永洋一  
九州芸術学館山口校 代表 伊東丈年

- バックナンバーのご希望は、下関市までお問い合わせを。創刊号、第2号、第3号は在庫切れです。総合政策部広報広聴課 ☎083-231-2951
- 下関市ホームページからも電子ブックで『083』が読めます。  
<http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/083/>

本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

次号予告 (2011年9月1日発行予定)

## 隣の 코리아

海の向こうはすぐ韓国・釜山。  
活発な往来のあった下関は  
日常風景に 코리아 情緒が溶け  
込んでいる。  
異色の文化をキャッチしよう!



### 下関の情報を航空機内で 本誌『083(ゼロハチサン)』を配布

本誌『083』は北九州空港と東京羽田空港を結ぶスターフライヤー便の機内でも配布されています。北九州空港を発着する航空便は、東京便が3社で1日16往復と、わが国の国内定期路線では最も朝早く飛び立ち、最も夜遅く終着を迎える路線として関門・北九州地域の観光、ビジネスの足となっています。また、下関市内から北九州空港までは、連絡バスや乗合いタクシーが運行されています。「映画の街」として、観光に力を入れる下関市では自然、歴史、文化をはじめとするすばらしい地域資源をひとりでも多くの方に知っていただくため、(株)スターフライヤーの協力を得て、同社の北九州-東京羽田線の機内で本誌『083』を2010年1月から乗客の皆さんに配布しています。



### アンケート&プレゼント

『083』は今これを手に取られたあなたのための情報誌です。つねに深い眼差しを心がけて、皆さまの役に立つ情報を、ワンテーマ方式で下関市から発信してまいります。第8号についてのご感想、及び今後特集してほしいテーマやとおきのお知らせなどを、綴じ込みハガキでお寄せください。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で④「スターフライヤー」の北九州-東京羽田間ペア往復航空券目録を1名様に、⑤モデルプレーンを5名様に、⑥4ページに登場する奥田瑛二さんのサイン入り映画『風の外側』DVDを1名様に、⑦8ページで紹介したシアター・ゼロの映画鑑賞ペア券を5組10名様にプレゼントします。応募締切は平成23年8月31日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。なお、応募はお一人様1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますので、ご注意ください。

